

ピアノ演奏に対する苦手意識の改善を目指して

上 野 史 織

Approach to Overcome Students' Awareness of not Being
Good at Playing the Piano

Ueno Shiori

豊岡短期大学 論集

第 16 号 別 冊

令和 2 年 3 月 31 日 発 行

ピアノ演奏に対する苦手意識の改善を目指して

Approach to Overcome Students' Awareness of not Being Good at Playing the Piano

上野 史織

Ueno Shiori

はじめに

日本の幼児保育の現場において毎日のように表現活動が行われている。なかでも音楽表現活動は幼児期における子供の成長に必要不可欠である。幼稚園や保育園などの現場では目的に応じて「童謡」「季節の歌」「英語の歌」「アニメの歌」「流行歌」など、様々な歌の種類が歌われる。これらの歌唱活動や表現活動では、主にピアノの弾き歌いで行われており、子供達の歌唱活動を充実させるためにはピアノ伴奏の影響は大きい。また幼稚園教諭や保育士を目指す学生が自ら音楽や演奏を楽しむためにも、ピアノの弾き歌いの技術の習得が必要であると考え。私は昨年度から保育者を目指す学生が通う T 専門学校でピアノを教えている。1年を経て、学生たちにピアノを教えるうえで学生がピアノの弾き歌いに対して苦手意識があると感じている。そこで、今年度 T 専門学校に入学した 1 年生にピアノを弾くことに関する意識調査（4 月、9 月）を行い、そのアンケートから学生がピアノを弾くことに対して苦手だと思っているということが分かった。そこでどんなことに対して苦手意識を持っているかを把握し、効率的な練習方法を実践し考察していくこととした。

第 1 回調査より（2019 年 4 月実施）

調査対象者

T 専門学校幼児教育保育科、保育科 1 年生全員。全 111 名（女 96 名 男 15 名）なお、調査対象者のピアノ経験者の割合は

入学前経験なし	69 名	62%
過去に習ったことがある	30 名	27%

今現在習っている	9名	8%
専門学校入学の為に習い始めた	3名	3%

調査内容

ピアノを弾くことが「苦手」だと思うか

はい	90名	81%
いいえ	21名	19%

「はい」と答えた方 何が苦手だと思うか (複数回答可)

楽譜が読めない	60名	54%
指使いが難しい	60名	54%
音の数が多曲が苦手	60名	54%
早く弾けない	54名	49%
指が動かない	51名	46%
聞いたことのない曲が苦手	48名	43%
和音が苦手	36名	32%
リズムが分からない	27名	24%
弾きながら歌うことが苦手	9名	8%
人前だと緊張して弾けない	9名	8%
手が届かない	3名	3%

仮説

このアンケート、日頃の学生のつぶやきも含めて、ピアノの経験者は少なく、苦手意識を持つ学生が大変多いことが改めてわかった。また、ピアノに苦手意識を持つ学生の多くは、楽譜を読むことが苦手であり、早く弾けないことも指使いが分からないことも大きく影響しているため、次のような仮説を立てた。

- ① より楽譜が読めるような具体的な手立てをすれば、苦手意識は減るであろう。
- ② 正しい指使いを習得することにより、苦手意識は減るであろう。
- ③ ピアノが上達したという意識が高くなればピアノを弾く事が好きになるであろう。

実践

仮説1より

- ① 単音を読む力を定着するため、範囲を少しずつ増やししながら、音譜を読むことを繰り返した。全体の曲が分かっている場合でも、いざ単音や短いメロディーになると、すぐ音名が分からなくなってしまう学生が多いため、まず大譜表を用いて全体の音の並びを教える。それぞれの音域のハ音～ト音までの5音を分けて繰り返し読ませ、カード(図1)やノートなどを使い、5指内に収まるので個々のレベルに合わせて摸奏なども取り入れていく。
- ② リズムの定着のため、模打からリズム譜の理解をさせた。最初は楽譜もリズム譜もなしに言葉や手拍子で4拍の短いリズムパターンをたたいて、リズムに慣れるようにする。そして、リズムの長さが目で分かるようにマグネットシートの音符(図2)を作り、少しずつ増やしていきながらリズムを作ったり、手でたたいたりする。
- ③ ①と②を合わせて、楽譜を読む力を向上させた。リズムパターンを作り、そのリズムパターンにドレミをあてはめて歌う。
- ④ 楽譜については、音名を書かずに楽譜の音を見て、自分の出した音を聴いて演奏するように指導した。理解ができない学生についてはリズム打ちからドレミ唱を分かりやすく指導する。



図1 音名のカード

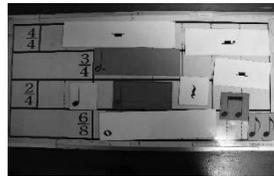


図2 マグネットシールの音符

仮説2より

- ① 指使いで苦戦している学生が多かった。曲の演奏については、正しい指使いがとても大切であることを繰り返し教えた。
- ② 指番号が分からない学生については、授業では個々にレッスンをしていくので、生徒一人一人に合わせて指番号を教えながら指導した。

仮説3より

- ① 学生により個人差が激しいため、他人との比較を行わず、個人レッスンに力入れた。
- ② 前回のレッスンでの注意が直っていたり、少しでも弾けるようになっていたりしていることについて

ては、些細なことでも気づくように心掛け、その成長について具体的に称賛した。

成果

以上の実践を行い、2回目のアンケートを行った。(9月)

前回のアンケートでの苦手意識の多かった事柄についても調査した。

アンケート結果より

ピアノを弾くことに苦手意識はなくなったか。

はい	27名	24%
少し	72名	57%
いいえ	12名	11%

4月に比べてピアノが上達したと思う。

はい	99名	89%
いいえ	12名	11%

ピアノを弾くのが好きになったか。

はい	63名	57%
少し	48名	43%
いいえ	0名	0%

楽譜が読めるようになったと思うか。

はい	45名	41%
少し	63名	57%
いいえ	3名	3%

指が動くようになったか。

はい	54名	49%
少し	57名	51%
いいえ	0名	0%

一人一人の感じている事を少しでも多く聞きたかったので、自由記述欄を設けた。

その内容を検証・内容別に以下のようにまとめた。

自由記述より

仮説 1 の検証

- ドレミが読めるようになったのと、両手で弾けるようになった。
- 楽譜を読むのが早くなったと思う。
- 音符を少し読めるようになり、簡単な曲ならなんとか弾けるようになった。
- 両手で弾けるようになったし少し音が読めるようになった。
- 音符がスラスラ読めるようになった。
- 前よりも指がスラスラ読めるようになった。
- 音符が読めるようになった。

以上より、楽譜を読むための手立てを行ったことで、音符を早く読むことができる、と感じた学生が多く、ピアノ技量の向上や意欲につながったことがわかる。

- 音符が理解できるようになった。鍵盤を理解できるようになった。
- 楽譜の読み方や、音符の名前など、基本的なことが少し分かるようになってきた。知らないことが多かったが知れてよかった。
- 簡単なリズムなら、右手と左手のリズムが違っても両手で弾けるようになった。
- リズムを取ることで、簡単な曲を弾けるようになった。

このことから、楽譜を読み取ることから、鍵盤に対しての意識やリズムの大切さを認識する学生も出たことが分かる。

仮説 2 の検証

- 前よりスムーズに両手で弾けるようになった。
- 手が移動するところも少し弾けるようになった。
- 簡単な曲だが両手で弾けるようになった。
- すらすら弾けるようになった。
- 両手を使って弾く事ができるようになった。
- 指が少しずつ動くようになってきた。
- 指の使い方が分かり、上手になったと思った。
- 最初は結構ミスタッチをしていたけど、今では少なくなりました。
- 両手で弾けるようになった。
- 弾き歌いができるようになった。
- 左手が少し動くようになった。

○手先の動きが機敏になった。

○スムーズに弾けるようになった。

○指の使い方が分からなかったけど、先生が教えてくれて分かるようになった。みんなの前だと弾けないから自信を持って弾けるようになりたい。

以上の記述から、指使いの基本や正しい指使いを習得することが、スムーズな指の動きや両手で弾くことができたりしていることがうかがえる。このことも学生の満足度につながっている、と思われる。

仮説3の検証

○1対1でレッスンをすると、分からないところなどのアドバイスを言ってもらえるのでいいなと思った。

○個々で先生が見てくれて良いなと思います。

○先生の教え方が上手で分かりやすい。

○ピアノの授業が不安だったけど、楽しくなりました。

○両手で弾くことが難しい為、たくさん練習しないといけなかったが、他の授業の課題等があった為、練習する時間は多くはなかった。でも先生方が優しく教えてくれたのでとても助かった。

個別のレッスン、個に合ったレッスンを充実させることが、ピアノを弾くことが楽しくなることにつながり、満足感を得たりすることが改めて分かる。

上達した実感やピアノへの意欲がわかる感想

ピアノが上手になった、一つの曲が弾けるようになったことが分かる感想

○入学時はドの位置も分からなかったが、1曲通して弾けるようになった。

○園児向けの曲が弾けるようになった。

○少し上手になった。

○弾き歌いが上達したと思った。

○両手で弾くことができるようになった。

○弾きながら歌えるようになった。

○前までドレミファソラシドしか弾けなかったけど、曲を弾けるようになった。

○前まで1曲も弾くことができなかったが、曲を最後まで弾けるようになった。

ピアノが弾けるようになり、音楽やピアノを好きになった、楽しくなったと思える感想

○少ないピアノの授業の中最初は片手でしか弾けなかったが、両手で弾けるようになった

ので嬉しい。時間があるときは家でいろんな曲を弾いたりするようになった。ピアノを弾くことが好きになった。

- 少しですが弾けるようになって、ピアノを弾くことが楽しいと感じるようになった。
- 楽しいです。
- 楽しい。

もっとがんばりたい、より難しい曲に挑戦したい、などこれからの意欲向上につながっている感想

- 自分の頑張りで成長度が変わるのでもっと頑張りたいと感じた。具体的には細かい表現など。
- 簡単な曲を弾けると、難しい曲にも挑戦したい気持ちになった。失敗してもあきらめないでやることの大切さを知った。
- 周りとのレベルの差を感じて辛かったが頑張ろうと思えるようになった。これからたくさん練習して、弾きたい曲を弾けるようになりたい。
- もっといろんな曲が弾けるようにがんばっていきたいと思う。
- もっとちゃんと弾けるようになりたいと思った。
- クラスの人たちの前で演奏すると緊張してなかなかうまく弾けないので、もっと練習して、緊張してもしっかり弾けるようになりたいと思う。
- 色んな曲を練習して、レパートリーを増やしたいと思った。
- もっと頑張りたいと思った。

おわりに

ピアノ経験のない学生が多いが、目的を持って本校に入学している学生が多いため、ピアノへの学習意欲も高い。そのためか、簡単な曲でできた喜びを味わうことにより、多くの学生が成長を感じたり、少しでも難しい曲に挑戦したりする意欲につながることができた。また、正しい指使いの習得のために、指番号をおさえながら練習を繰り返すことにより、思った以上にスムーズに指が動くようになり、ピアノ技術の上達を実感する学生が多かった。楽譜を読む力を向上させるために、単音を読むこと、音名を書かずに楽譜の音を読むことに力を入れた。さらに自分の出した音を聴いて演奏できるように反復練習をすることによって、自然と楽譜を読む力が上達するなどの満足感を得ることが、少しでも上達の実感につながっていたように思う。まだ、人前でピアノを弾くことに抵抗のある学生も多いため、今後もできた喜びを少しでも実感できる指導を重ねていきたい。

参考文献

- 中嶋恵美子. (2016). *知っておきたい幼児の特性:ピアノ・レッスン「なぜ、わからないの?」と悩む前に*. 音楽之友社.
- 馬場マサヨ. (2016). *目からウロコのピアノ指導法*. Yamaha music media corporation.
- 山崎房一. (2001). *どんどんほめればグングン伸びる*. PHP 研究所